

# G ガール 破壊的な彼女

2007(平成19)年1月31日鑑賞(東宝試写室)

★★★



監督=アイヴァン・ライトマン/出演=ユマ・サーマン/ルーク・ウィルソン/アンナ・ファリス/レイン・ウィルソン/エディ・イザード (20世紀フォックス映画配給/2006年アメリカ映画/98分)

……「悩み無用、リーブ〇〇」という感覚で、髪の毛ならぬ頭の中を空っぽにしたいなら、「エロかっこいい」をテーマとした(?)こんな映画がお薦め……? 『キル・ビル』と正反対のキャラを演ずるユマ・サーマンだが、大柄な彼女には、やはりお笑い系よりはシリアス系の方がお似合いでは……? それにしても、アハハと笑ってしまった後は何も残らず、空虚感だけだがまあそれも仕方なし……。

## ハリウッドも倅田來未型を待望……?

今や完全にかつての女王、浜崎あゆみの地位を奪ってしまったのが、2005年の日本レコード大賞に続いて、2006年の日本レコード大賞歌唱賞を受賞した倅田來未。『Butterfly』で大ヒットをとばした彼女につけられた称号は「エロカっこいい」で、それまでの女王にはまずつけられなかったもの……。

そんな日本の状況を見て、最近人気のネタやキャラが不足気味のハリウッドが待望したのが、倅田來未型のエロカっこいいヒロインの登場……? そして、それを具体化したのが、『キル・ビル～KILL BILL～Vol.1』(03年)ですごい殺陣を見せた長身のユマ・サーマン。強くてカッコ良く、かつセクシーというキャラは、『エレクトラ』(04年)や『ウルトラヴァイオレット』(06年)、『キャットウーマン』(04年)などたくさんあるが、ディープキスのテクニックやベッドのテクニックが抜群というエロいスーパーウーマンは、G ガールがはじめて。さあ、そんなG ガールのエロかわいさぶりは……?

## G ガールはそのファッションが命綱……？

映画の冒頭、ニューヨークのマンハッタンにあるブルガリの宝石店で発生した強盗事件を、今ニューヨークで絶大な人気を誇るGガールが、車ごと犯人たちを叩きのめすことによって解決する痛快なシーンが登場する。この時Gガールは、胸に大きくGと刻まれたステキなワンピース(?)と黒のマントに身を包み、美しいブロンドの髪をなびかせて登場するが、その後Gガールのファッションは次々と変化していくから、女性ファンは特にそれに注目！ このファッションを考えるだけでスタッフは大変だと思うが、実はそれがこの作品の命綱……？

## 強い女には弱い男が……

そんなカッコいいGガールのファンが、設計会社の部長マット・サンダース(ルーク・ウィルソン)と彼の同僚のヴォーン・ヘイジ(レイン・ウィルソン)だが、この2人は女にかけては性格が正反対。すなわち、ヴォーンは誰にでもすぐにアタックできる積極派だが、マットはその点からつきしダメ。したがって、マットは今恋人に振られた状態で半年も過ごしている状態で、キュートな同僚のハンナ・ルイス(アンナ・ファリス)に励まされても、彼の意気は上がらない。

そんなマットとヴォーンの2人がたまたま地下鉄内で出会ったのが、メガネをかけたブロンドの美女。ヴォーンに何度もそそのかされて、マットがやっと勇気を出して彼女に声をかけた時、1人のひったくりが彼女のバッグを奪って逃げ出したから大変。マットはここぞとばかり犯人を追いかけ、いいところを見せようとしたが……？

## ちょっと話がうますぎるのでは……？

犯人に逃げられたばかりか、逆に反撃されてごみ箱の中に逃げ込んでいたマットを秘かに助けたのがGガールだったが、もちろんそんなことはわからないまま、マットはすんなりこのメガネの金髪美女ジェニー・ジョンソン(ユマ・サーマン)といい仲に……。デートの誘いもオーケー、食事もオーケー、そのうえマットの部屋を訪れたジェニーは、積極的にキステクニックとベッドテクニックを駆

使したから、マットは驚きとともに、幸せを満喫することに……。

そのうえ、ジェニーは絶対に誰にもしゃべらないという約束の上で、自分がGガールであることを告白。これで2人の仲は永遠に、とマットは考えたが、そりゃちょっと話がうますぎるのでは……？

## Gガールは実は性欲と独占欲の強いエロガール……？

世のため、人のため悪と闘い、また隕石まで退治して地球のために闘ってくれるGガールだったが、少しずつマットに見せてきたジェニーの本性は、実は性欲と独占欲が異常に強いエロガール……？ 職場の同僚ハンナと少し話をしただけで嫉妬心を見せるばかりか、マットに対する仕返しもかなり陰湿かつ超強力……？ そんな異常な行動を次々と見せられる中、気の弱いマットは自分がホントに好きな女性はすぐ近くにいたハンナだったと気づき、遂にジェニーに対して「別れよう」と切り出したからもう大変……。

マットの部屋はもとより、大きなプロジェクトを抱えていた仕事もメチャクチャにされ、マットはとうとう会社からクビを宣告される始末……。果たして、マットの行く先は……？

## Gガールにも天敵が……？

Gガールがスーパーパワーを身につけたことについては、当然理由があった。それは宇宙から降ってきた隕石にジェニーが手を触れたため……。そんなGガールのスーパーパワーの原因を突きつめ、逆にそのパワーを無力化する方法を研究していたのが、ベッドラム教授（エディ・イザード）とその手下たち。ベッドラム教授とジェニーはハイスクール時代の冴えない同級生同士のカップルだったが、ジェニーがスーパーパワーを身につけたことによって自分から離れて行ったことを恨みに思い、ベッドラム教授はGガールの無力化を狙っていたのだった。

そこでベッドラム教授が目つけたのがマット。再び隕石にGガールの手を触れさせれば、そのパワーを無力化できると確信したベッドラム教授は、そのための協力をマットに要請したのだった。もちろん、当初はそんな協力を拒否したマットだったが、Gガールのあまりに身勝手なパワーの乱用ぶりに業を煮やしたマ

ットは、遂にベッドラム教授への協力を表明。さあ、G ガールの運命やいかに……？

## 内ゲバが激しいのは、G ガールも同じ……？

この映画がマンガ的なテイストでオーケーと割り切っていることは、マットがベッドラム教授へ協力したことによって、危機に追い込まれたG ガールと対決する新たなG ガールが登場したことで明らか……。すなわち、ハンナが隕石に触れたことによって、ジェニーと同じように超能力を授かってしまったのだ。したがって、ストーリーのある局面において、G ガール同士の内ゲバが発生することに……。

1960年代後半から70年代にかけての学生運動を省みるまでもなく、外の敵との闘争よりも、内ゲバの方が闘争が激しくなるのは常識。しかもこの2人は、マットをめぐる女同士の恋の争奪戦も兼ねており、ライバル心も燃えているから大変。そんな2人のG ガール同士の闘いとその結末は……？

## ベッドラム教授も実はいい奴だった……？

スーパーヒーローもの映画には、普通きちんとした悪役(?)がいるものだが、この映画では、どうも最初からベッドラム教授という悪役のキャラが頼りなさそうなのが気がかり……。もっとも、力はないが知恵と陰険さだけは大丈夫、と思っていたのだが、後半からラストにかけてはその信頼(?)も大きく揺らいでいくことに……？

ネタばらしは避けるが、そのヒントはもともとこの2人は恋仲だったということ。ジェニーのあまりの嫉妬心の強さに辟易したマットの心が同僚のハンナに移った今こそ、ベッドラム教授がジェニーを口説くチャンス……。しかし、そんなシチュエーションとなり、ひょっとしてジェニーとベッドラム教授がめでたくゴールインとでもなれば、この映画はすべてがめでたし、めでたしになってしまうが……？ ベッドラム教授も実はいい奴だった、そんな八方丸く収まるエンディングでホントにいいの……？

2007(平成19)年2月6日記